



上峰町立上峰中学校だより

ちんぜい

No.3

発行日：令和8年6月12日

発行者（文責）：校長 永田康子

学校教育目標：心豊かに たくましく生きる生徒の育成 -自ら考え、判断し、行動する中学校生活を通して-
生徒会スローガン：オリジナル～全員の個性が輝く学校へ～

先日の体育大会では、多くの保護者の皆様にご来校いただき、温かいご声援をいただきました。心より感謝申し上げます。今年の体育大会は、生徒たち自身が考え、話し合い、創り上げることを大切にしてきました。競技の勝敗だけでなく、仲間と協力すること、自分の役割を果たすこと、思い通りにいかない状況を乗り越えることなど、多くの学びがあったと思います。閉会後の生徒たちの表情からは、やり切った達成感と確かな成長を感じることができました。しかし、体育大会の本当の価値は、その日で終わるものではありません。そこで得た経験や学びを、その後の学校生活にどう生かしていくかが大切です。

これから梅雨の時期を迎えます。落ち着いて学習に向き合うことができる季節でもあります。体育大会で培った挑戦する気持ちや仲間と協力する姿勢を、授業や生徒会活動、部活動、そして日々の生活の中で発揮してほしいと思います。大きな行事を成功させた生徒たちは、今、次のステージへ進もうとしています。一人一人が新たな目標を見つけ、自分で考え、判断し、行動する力をさらに伸ばしていくことを期待しています。

生徒総会「自分たちの学校は、自分たちでつくる」

6月5日（金）の5、6時間目に生徒総会を開催しました。生徒総会に向けて、事前に議案書をもとに学級討議が行われ、各委員会が提案している活動計画の内容や目的について活発な意見が出されました。総会当日も真剣な表情で議案を読み込み、積極的に質問や意見を述べる姿が見られました。私はその様子を見ながら、生徒たちの成長と学校への思いを大変頼もしく感じました。



また、決して全校生徒の目に触れることではありませんが、総会に向けての生徒会役員の準備の丁寧さは素晴らしかったです。議案書の作成や提案内容の検討、質問への回答準備など、多くの時間と労力をかけて総会に臨んでいました。その根底には、「自分たちの学校をもっとよくしたい」「生徒会活動を本当に主体的なものにしたい」という強い思いがあったように感じます。準備は華やかなものではありませんが、気づかれないうところで努力をし、考え、協力し合いながら確実に進めていた生徒会役員の生徒たちには心から敬意を表します。今年度は、生徒会予算の配分についても、生徒会役員が中心となって案を作成しました。限られた予算をどのように使えば全校生徒のためになるのかを考え、話し合いを重ねながら提案をまとめました。これは単にお金の使い方を決めるということではありません。学校全体のことを考え、優先順位をつけながら意思決定を行う貴重な学びの機会となっています。



生徒会は、生徒による自治的な組織です。しかし同時に、学校の教育活動の一環として行われるものであり、必要に応じて教職員の助言や判断を受けることもあります。それでも、学校生活に関わることについて考え、話し合い、決定していく主体は生徒自身です。生徒総会は、そのための大切な場です。生徒には誰もが自由に意見を述べる権利があります。また、話し合いに参加し、学校の意思決定に関わる権利もあります。一方で、自分たちの学校をよりよくするために責任をもって考え、行動することも求められます。

本校では、「自分たちの学校は、自分たちでつくる」という考えを大切にしています。生徒会役員だけが学校をつくるわけではありません。一人一人の意見や行動が学校を変えていきます。今回の生徒総会をきっかけに、より多くの生徒が学校づくりに関心をもち、主体的に生徒会活動へ参加してくれることを期待しています。

6月全校集会「知的好奇心を広げる読書の力」

先日の全校集会では、「知的好奇心」をテーマに、図書委員長の太田悠葵さん、山口陽愛さん、図書司書の後藤先生、そして私による座談会を行いました。体育大会という大きな行事を終え、生徒たちは達成感を味わうとともに、少しほっと一息ついている時期です。そこで、次の成長のステージへ向かうために何ができるかを全校で考える機会にしたいと思い、このテーマを設定しました。

座談会では、図書委員長たちが読書の魅力について「本を読むと知らなかったことが分かって面白い」「文章を読む力がつく」「自分が体験できない世界を知ることができる」「登場人物の気持ちを想像することで想像力が高まる」など、自分の言葉で語りました。実際に読書を通して得た実感が込められており、改めて読書の面白さを認識し、大変頼もしく感じました。また、後藤先生からは、本校で活用している「ぽけっと図書館(ポケ図書)」の紹介がありました。タブレットから蔵書検索したり、自分の読書の記録を確認したり、おすすめの本を知ることができる便利なシステムで、生徒たちがより気軽に本と出会える環境が整っています。図書館に足を運ぶことはもちろんですが、こうしたツールを活用しながら、自分に合った一冊を見つけてほしいと思います。太田さんや山口さんも語ったように、読書の価値は、単に知識を増やすことだけではありません。本を通して新しい考え方や価値観に出会い、自分自身の世界を広げることができます。また、文章を読み取る力や考える力は、すべての教科の学習の土台となります。さらに、他者の気持ちや立場を想像する力は、人とのよりよい関係づくりにもつながります。

これから梅雨の時期を迎え、室内で過ごす時間も増えていきます。ぜひこの機会に、ご家庭でも読書について話題にいただければと思います。体育大会で培った挑戦する気持ちや仲間と協力する力を大切にしながら、今度は本との出会いを通して知的好奇心を広げ、自ら学び続ける力を育ててほしいと願っています。一冊の本との出会いが、生徒たちの未来を大きく広げるきっかけになるかもしれません。

教育実習生を迎えて

今月、本校では2名の教育実習生を受け入れています。二人とも本校の卒業生であり、将来教師になることを目指して三週間(6月1日~19日)の教育実習に取り組んでいます。

教育実習は、大学で学んだ教育に関する知識や理論を実際の学校現場で確かめ、教師として必要な力を身に付けるための大切な学びの機会です。授業づくりや学級経営、生徒との関わり方、学校行事への参加など、教員の仕事を実際に体験しながら学んでいきます。教師という仕事は、教科を教えるだけではありません。生徒一人一人の成長を支え、仲間や地域とともに学校をつくっていく専門職です。教育実習は、その責任とやりがいを実感する貴重な機会となります。また、教育実習の意義は実習生だけにあるわけではありません。生徒たちにとっても、自分たちと年齢の近い実習生と関わることで、新たな刺激や学びを得ることができます。卒業生が夢に向かって努力している姿は、生徒たちにとって将来を考えるよいきっかけにもなります。「自分も将来こんな仕事に就きたい」「目標に向かって頑張りたい」と感じる生徒もいることでしょう。

さらに、学校にとって教育実習生を受け入れることは、未来の教育を担う人材を育てるという大切な役割でもあります。教師不足が社会的な課題となる中、実習生が学校現場の魅力や教師という仕事のやりがいを感じ、「教師になりたい」という思いをより強くしてくれることを願っています。保護者の皆様にも、温かく見守っていただければ幸いです。